地方独立行政法人
埼玉県立病院機構



病院キャラクター「カリヨンの樹」に住むロボットたち

令和８年
(2026年)
10月発行
第36号

埼玉県立小児医療センターだより

超少子化時代の地域連携とは



副病院長兼地域連携・相談支援センター長　渡邊　彰二

本邦ではかつてないスピードで出生数と年少人口が減少しており、国をあげて対策に乗り出しております。埼玉県においてもこの傾向は顕著であり、埼玉県の2025年の出生数は10年前と比べて30%近く減少して４万人を下回り、年少人口は10年前と比べて14%減少し80万人を下回りそうな結果になっています。減少の程度は年々悪化していますので、母集団の減少に伴い当然の帰結として紹介患者数の減少につながると想定されます。一方で、医療的ケア児や発達障害あるいは慢性疾患を抱える児の比率は増加しており、母集団が減少しても小児医療のニーズが減少しているわけではなく、地域には新たなニーズが発生しています。

当センターは県の政策医療を推進する高度急性期病院であります。今後も地域で要求される役割は変わらないと想定されますので、現在と同等の医療の質を担保するためには施設維持や人員確保だけでなく、高度医療を必要とする患者数の確保も重要です。しかしその役割だけに固執して集患目的の連携活動に終始したところで、超少子化の時代には早晩限界が訪れ、関連する多くの地域の医療ニーズとも合わなくなってきます。しかし地域の新しいニーズも含めて手広く展開しますと、院内の観点では退院調整に時間がかかる患者さんがベッドを埋め、結果として高度急性期医療を必要とする患者さんの要請があっても収容が困難になるというジレンマを抱える事になり、院外の観点では各地域に存在する貴重な小児医療の資源が維持継続困難になり、結果として患者さんの不利益につながる事もあり得ます。最適解をどのように探すか悩む状況ではありますが、今後は医療という枠を超え患者さんとご家族の暮らしを地域全体で支える事を目標とし、医療機関や療育機関、学校や保健所等、地域に存在する多様な資源に対し患者さんを中心とした相談のネットワークを構築し、それぞれが実行可能な役割を意見交換することで患者さん個々の最適解を探る、という丁寧な対応が要求されているのではないかと考えています。

ネットワークの具体的な構築手法として、近隣郡市医師会の先生方にお願いをして出張講演会を企画しており、７医師会に対し年６回の定期講演会を実施しています。『顔の見える関係構築』を主眼にしていることもあり、当センターに対する率直なご意見や地域別の細かい医療ニーズのご教示や、こちらから小児科以外の先生方へのアプローチの相談など、意見交換を通じて非常に有益な事業となっており、今後の連携事業の核になる部分と確信しております。

今後ともご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより　第36号　ご案内

○　診療部門紹介　臨床研究・治験センター……2
○　診療部門紹介　整形外科・リハビリテーション科 …3
○　看護部門紹介　緩和ケア認定看護師……4
○　コ・メディカル部門紹介　臨床工学部……5
○　令和８年度　セミナー・講演会等のお知らせ　……6
○　医療機関の皆様へ　受診のご案内……6



診療部門紹介

臨床研究・治験センター



センター長　中澤　温子

臨床研究・治験センターは、小児医療に特化した専門施設として、診療から生まれる疑問を新たな医療につなげるため、臨床研究・治験の企画立案や実施支援を行うとともに、特殊免疫染色や FISH 解析、がんゲノムプロファイリング検査への対応、研究用検体の保存・活用、実験設備や実験動物施設の整備・運営など、臨床研究や治験を支える基盤づくりに取り組んでいます。成長・発達の過程にある子どもの病気には、大人とは異なる特徴や希少疾患も多く、小児に特化した研究が欠かせません。私たちは、患者さんとご家族の安心・安全を第一に、倫理性と信頼性を大切にしながら、子どもたちの未来を支える研究を推進してまいります。

臨床研究とは

病気の原因や仕組みを明らかにし、診断・予防・治療法の向上を目指し、より良い医療の実現に向けて行う研究です。

治験とは

新しい薬や医療機器などについて、有効性と安全性を確認し、国の承認を目指して行う臨床試験です。

臨床研究・治験センター
Center for Clinical Research and Clinical Trials

臨床研究部 Department of Clinical Research

- **臨床研究支援室** Division of Clinical Research Support
- **臨床研究室** Clinical Research Laboratory
- **動物実験管理室** Division of Laboratory Animal Management
- **治験管理室** Division of Clinical Trial Management

臨床研究室



検体処理用安全キャビネット（左）と換気装置付染色ブース（右）

臨床研究支援室

臨床研究の企画立案から研究計画書の作成、倫理審査、研究実施、成果公表まで、研究者を一貫して支援しています。多施設共同研究や県内医療機関との共同研究の相談にも対応しています。

臨床研究室

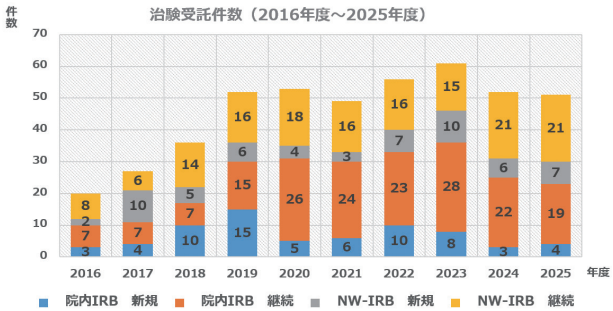
がんゲノムプロファイリング検査の検体提出、特殊免疫染色、FISH 解析などの高度な検査を実施するとともに、研究用検体の保存管理、研究機器の維持管理、研究用動物飼育を通じて、院内の研究基盤を支えています。

動物実験管理室

動物実験委員会の運営、教育・研修、施設管理を通じて、倫理性・科学性・動物福祉に配慮した適正な動物実験を支援しています。厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会の外部検証を受けた施設です。

治験管理室

企業治験・医師主導治験の実施を支援し、CRC による患者さん・ご家族への支援や治験事務局業務、関係部署との調整を通じて、安全性・倫理性・科学性を確保しながら、質の高い治験を推進しています。



ご相談・お問合せ窓口

■臨床研究に関するご相談

（医療機関・企業・患者さん・ご家族）
- 臨床研究について知りたい
- 共同研究・研究支援に関するご相談
- 倫理審査・研究計画に関するご相談

➡ **臨床研究支援室**
TEL：048-601-2200（内線 2522）
E-mail：sc.res.scmc(at)saitama-pho.jp
(at) → @ に書き換えてご送信ください

■治験に関するご相談

（医療機関・企業・患者さん・ご家族）
- 治験について知りたい
- 治験への参加に関するご相談
- 企業治験・医師主導治験に関するご相談

➡ **治験管理室**
TEL：048-601-2200（内線 2620）
E-mail：sc.chiken(at)saitama-pho.jp
(at) → @ に書き換えてご送信ください

臨床研究・治験に関するご相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください

診療部門紹介

整形外科・リハビリテーション科

科長　平良　勝章

皆様こんにちは。整形外科・リハビリテーション科です。当科では、四肢先天異常・股関節疾患・脊椎疾患・スポーツ障害・骨折など四肢の骨・関節に関わるあらゆる疾患を幅広く診療しております。子どもの骨や関節の病気は大人とは大きく異なるため、小児整形外科の専門的な知識と豊富な経験を持つ常勤医４名・レジデント１名の体制で、日々の診療にあたっております。

979	449	4
外来新患数（人）	総手術件数（件）	常勤医師数（名）
過去最高を記録	うち外傷手術 110 件	平良勝章・根本菜穂・及川昇・
股関節・先天性疾患が上位	上腕骨顆上骨折が最多	町田真理医師が担当

小児運動器センター（PMDC）

2024年4月開設。整形外科医・PT・OT・地域療育センターが連携し、包括的な診療を提供

- 脳性麻痺部門
- スポーツ部門
- 血液・がん部門
- 発達・運動部門

毎週火曜14～16時：「運動器ロコモ外来」「運動器ブレース外来」「運動器シーティング外来」の3窓口で対応

専門的な治療の特色

開排位持続牽引整復法（FACT）
先天性股関節脱臼に対し、体への負担を最小限に抑えた安全な牽引治療です

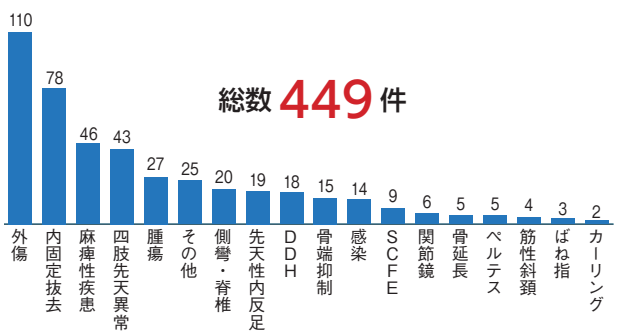
ボツリヌス療法
脳性麻痺による痙性に対しボツリヌス注射を行い、歩行改善やリハビリを促進します

乳幼児股関節検診
超音波・X 線による精密検査と育児指導を提供。1か月健診への導入も実施中です

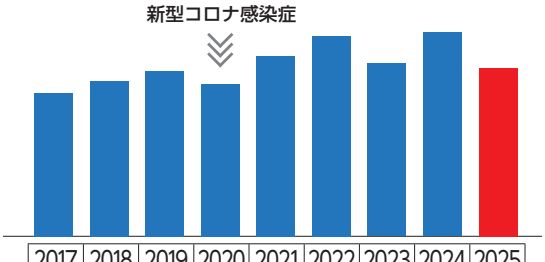
時間外の外傷（骨折など）はさいたま赤十字病院高度救命救急センターと連携し、対応可能です。先天性内反足・化膿性疾患・ペルテス病など早期治療を要する疾患はお電話にてご相談ください。長期入院中も併設の特別支援学校で学習を継続できます。

子どもたちが笑顔で未来へ歩んでいけるよう、スタッフ一同、温かく質の高い医療の提供に努めてまいります。

疾患別手術件数（2025 年度）



手術件数推移（新病院以降）



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
手術件数	383	414	441	407	481	534	461	563	449

看護部門紹介
緩和ケア認定看護師

外来　川上　紘子

緩和ケアについて

『緩和ケア』は、特定の病気や看取り期に限られたものではなく、すべての方が対象です。病気が診断されたときからはじまり、身体の症状だけでなく、心のつらさや不安に寄り添うケアです。病気のお子さんだけでなくご家族やごきょうだいも緩和ケアの対象です。緩和ケアは、だれもが受けることのできるケアです。緩和ケア認定看護師は、その対象となる人々の**『身体的』・『精神的』・『社会的』・『スピリチュアル』な苦痛（トータルペイン）**を和らげ、生活の質（QOL）を高める専門の看護師です。

病気による「つらさ」は、体の痛みだけでなく、病気や治療に伴う不安な気持ち、社会生活を送る上での心配事など、いくつもの要素が重なり生まれます。認定看護師としての役割には、「実践」「指導」「相談」の３つがあります。質の高いケアの提供、スタッフ指導、子ども・ご家族・スタッフからの相談を通して、子どもらしさ・家族らしさを支え、より良い支援を行えるように活動しています。

緩和ケアチーム活動の様子



2010 年に緩和ケアチームが発足しました。

週１回各部署のラウンドを実施しています。チームのメンバーには、医師・薬剤師・栄養士・心理士・病棟看護師がいます。これらのメンバーで緩和ケアを必要とするお子さんとご家族のケアについて考えて活動をしています。

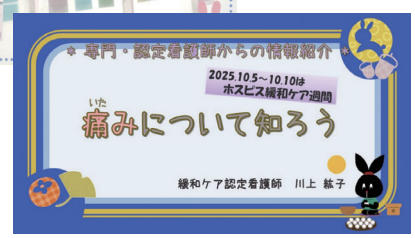
グリーフケア

大切なお子さんを亡くしたご家族の悲しみを和らげる活動として、「カリヨンコール」を開始して８年目を迎えました。電話やメールをいただいたご家族のお話を伺い、その内容に合わせた対応をしています。



緩和ケア普及活動





さまざまな分野の認定看護師が正面玄関入口にお子さんやご家族に役立つ情報を掲示しています。

2024 年は「知ってほしい！緩和ケア」

2025 年は「痛みについて知ろう」

をテーマに掲示しました。





コ・メディカル部門紹介

臨床工学部



部長　古山　義明

臨床工学部の紹介



臨床工学技士は、医師の指示のもと、生命維持管理装置の操作や保守管理を行う医療機器の専門職です。当センターでは 11 名の臨床工学技士が勤務し、休日・夜間も日当直体制で 24 時間対応しています。

【手術室】



心臓外科手術では、人工心肺装置を操作し、心臓や肺の働きを一時的に代行します。当院では年間約 150 例の人工心肺症例に対応しています。

【PICU・HCU・NICU・GCU】





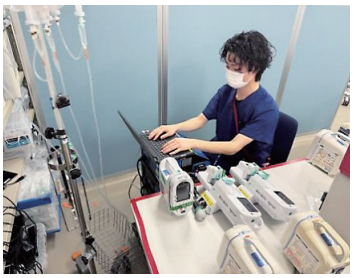
集中治療室では、ECMO や人工呼吸器、血液浄化装置、アフェレーシス療法などの操作・管理・点検を行い、安全な治療を支えています。

【在宅医療】



在宅人工呼吸器療法や在宅酸素療法、在宅経管栄養療法などを導入する患者さんやご家族へ、機器の使用方法や管理方法について説明・指導を行っています。

【教育・医療安全】





医療機器の定期点検や院内ラウンド、勉強会を実施し、安全な医療機器の使用を支援しています。また、医療安全活動にも参加し、医療機器に関する事故防止に取り組んでいます。

臨床工学技士は、医療機器の専門家として、安全で質の高い医療を支える重要な役割を担っています。

お知らせ

一般の方向け

2026 年度 県民のための医療セミナー
第 1 回 未来の医療者を目指す中高生への応援セミナー
小児病院ってどんなところ？
医師、看護師、コ・メディカルの話を聞いてみよう！

内　容　小児病院ってどんな病院？どんな職種の人が働いていて、医師にはどんな専門医がいるの？看護師の仕事や病院の様々な設備など、小児医療センターの紹介を交えながらお話しします。
フリートークタイムでは、興味のある職種のスタッフと直接お話ができます。ぜひご参加ください。

日　時　令和８年 11 月３日（祝・火）13:00 ～ 16:00

場　所　With You さいたま　４階セミナー室

申込み　詳細は右の二次元コードからご確認ください。お申し込みもこちらからできます。

申込期間　令和８年 10 月 23 日（金）まで

＜セミナーのご案内＞

医療関係者向け

埼玉県立小児医療センター
第 12 回地域連携懇談会
未来へつなぐ子どもの医療
小児医療の充実とトランジション支援

内　容　第１部の講演会では遺伝科、耳鼻咽喉科の取組みやビジョンをご紹介するとともに、小児期発症疾患を持つ患者の移行期医療について取り上げます。
第２部の懇親会は今後の地域医療の連携をさらに深めていただく有意義な時間となります。ぜひご参加ください。

日　時　令和９年１月 28 日（木）　18:30 ～ 20:30

場　所　小児医療センター６階講堂

申込み　詳細は右の二次元コードからご確認ください。お申し込みもこちらからできます。

申込期間　令和９年１月 24 日（日）まで

＜地域連携懇談会のご案内＞

皆さまのご参加をお待ちしています！

医療機関の皆様へ　受診のご案内

①患者さん（ご家族）からの予約

紹介元医療機関 → **紹介状**（診療科が明記されているもの） → 患者さん予約の電話 → **予約専用電話**

初診受付時間	14:00～17:00(土・日・祝日除く)
再診受付時間	9:00～17:00(土・日・祝日除く)
一般外来	☎048-601-0489
保健発達部門	☎048-601-2165

→ 患者さん来院 → **受診当日にお持ちいただくもの**
①マイナ保険証又は資格確認書
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からの予約・お問い合わせ

紹介元医療機関 →

緊急診療（当日診療）の場合 → **電話交換手へ**
緊急性があることをお伝えください
（365日 24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその「**該当する診療科医師**」へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間帯又は、診療科が不明確な場合は「**救急診療科医師**」へおつなぎしますのでご相談ください

小児医療センター
代表電話
☎ 048-601-2200

・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
・該当する診療科が不明確な場合 → **電話交換手へ**
相談内容をお伝えください
受付時間（9:00～17:00 土日祝除く）

→ **地域連携・相談支援センター（地域連携担当）**が対応します
現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXでお送りください
医師に確認後、ご連絡します
FAX：048-601-2237

病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約５分
- JR 埼京線「北与野駅」から徒歩約６分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。無理のない範囲で公共交通機関のご利用をお願いいたします。

（センター敷地内は全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします）

当センターHP

埼玉県マスコット
「コバトン」＆「さいたまっち」

埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel ▷048-601-2200（代表）Fax ▷048-601-2201
E-mail ▷ scmc(at)saitama-pho.jp
(at) → @ に書き換えてご送信ください
U R L ▷ https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html

埼玉県立小児医療センターだより第36号
令和８年（2026 年）10 月発行
編集・発行　埼玉県立小児医療センター

総フォロワー数 8,000 人以上！

埼玉県立小児医療センター公式 SNS　ぜひご登録ください！
YouTube　Instagram　X　Facebook